

平成8年度・13年度にワイルドフラワーやあじさい・芝桜・コスモス・菜の花など合計約2ヘクタールにわたり植え付けを行い、管理を行った。また、平成10年度・11年度には、「森とうちぬきの会」、「松下グリーンボランティアクラブ」による桜の苗木が植えられ、現在、約160本の桜が育っている。しかし、花畑の土壌が酸性であったことや、雑草の繁茂が著しいことから、現在はあじさい園だけが残っている状況となっている。

平成19年度の現在までの維持管理費は、74万4千853円で、その内訳は、仮設トイレの清掃業務委託料に10万683円、周回道路沿線の除草・桜の下草の除去等に64万4千170円である。しかし、依然、雑草が多いことから、今年度内の職員による草刈り等、環境の保全に努めていきたい。

円山の当面的な整備については、現在のところ、経費を投入して施設整備をする予定はなく、当面は自然を生かしたフィールドとして、現在の形態で維持・管理したい。

また、今後の維持管理については、今の管理費等ではじゅうぶんな対応が難しいこともあり、市民が野菜や花等を植栽して自然に触れ合う市民農園制度や、公園の里親制度についても検討するとともに、市民の協力も得ながら、適切な維持管理を行っていきたい。

将来計画については、かつて学習機能及びレクリエーション機能を併せ持った、四季を通じて楽し

める森林自然公園と位置付け、園芸学校の誘致等の検討を行ったところがあるが、実現には至っていないことから、今後は、行政・大学・地域住民の連携のもと、この自然を生かしたフィールドを可能な限り有効な施設とさせたい。

どうなる？市職員の定員適正化計画と今後の総合支所機能（自民クラブ）



住民サービスを担う総合支所

問

市職員の定員適正化計画では、合併時に1千408人であった職員数を、5年間で100人・7.1パーセント削減することを目指すとしているが、合併後3年経過した職員数及び組織の状況・指定管理者制度の導入による職員の異動状況・職員の新規採用計画について問う。

また、将来の本庁方式を見据えた今後の総合支所機能についての

考えを問う。

答

合併後の職員数は、平成19年4月1日現在、1千262人であり、合併時点との比較で146人・10.4パーセントの削減となっている。このうち、半数の73人が病院職員である。組織としては、合併時と平成19年度を比較すると、2部を増設したが、7課・36係の削減となっている。

指定管理者制度については、平成19年4月1日現在で14施設に導入されており、そのうち正規職員は3施設に10名が配置されていたが、現在は他部門へ配置転換している。

職員採用に当たっては、定員適正化計画に基づく定数の削減・新たな行政ニーズへの対応・将来にわたる安定的な組織運営・年度間の採用数の均衡化・職員の年齢構成の平準化等に配慮し、計画的に実施している。採用実績としては、平成18年4月1日付けで6名、19年4月1日付けで7名を採用している。

総合支所機能は、管理部門や総務部門を除き、旧団体における従来の行政機能を維持した部署方式である。所管区域における住民サービスの維持・向上を基本とし、主に直接的な住民サービスに関する事務を所管している。現在、組織改編において課・係の統廃合、事務の本庁集約を行い、総合支所の職員数は減少しているが、本庁と総合支所との連携強化により、

一体的かつ広域的な住民サービスの確保に努めている。今後もこのような考え方に立ち、当面的には総合支所方式の定着を図りたい。

どうなる？

駅のバリアフリー化

（日本共産党西条市議団）

問

JRの駅を利用する高齢者や障害者などの利便性を向上させるため、エレベーターの設置や段差の解消など、交通弱者に優しい交通バリアフリーを進展させる取り組みや、駅舎の整備改善に関するJR四国との協議状況について問う。

答

当市ではこれまで、高齢者や障害者を含むすべての市民が、安心して快適に生活できる都市環境づくりに取り組み、歩道の拡幅や段差の解消、点字ブロックの敷設、公共建築物のバリアフリー化等を実施してきたところである。

特に、これらの施策を総合的・計画的に推進するため、平成6年には「福祉の街づくり整備計画」を策定しているが、この計画ではモデル整備計画地域をJR伊予西条駅を含む91ヘクタールとしており、現在取り組んでいる同駅周辺整備事業でも、こうした思いをもつて取り組んでいる。具体的には、駅前広場の高さを駅舎と同じにして、駅舎前の段差解消を図るほか、車いすの通行に支障とならない道

路の整備や、弱視のかたに配慮した誘導警告ブロックの敷設も行うこととしている。

なお、JR伊予西条駅周辺整備に伴い、平成16年度に組織した「まちづくり事業計画策定委員会」で、JR四国とは駅舎のバリアフリー化については話題にのぼらなかったが、これまでの経緯のなかで、改札口の改善や駅舎・プラットフォームへの点字ブロックの敷設等のほかに、高齢者・障害者に対する人的支援等の配慮をいただいている。

また、JR伊予西条駅へのエレベーター設置については、現施設では構造的に困難とのことであり、一方、JR壬生川駅についても、これまでに出入口等の段差の切り下げ等を実施してきたところであるが、その他のバリアフリー化に向けた両駅に共通した課題については、今後もテーマを掲げて対応していきたいと考えている。



駅舎と駅前広場の段差解消へ